

『獨協大学外国語教育研究所紀要』第9号の刊行によせて

外国語教育研究所長
柿沼 義孝

『獨協大学外国語教育研究所紀要』第9号をお届けします。

外国語教育研究所の紀要が発刊されて、本号で9号を迎えることができ、本研究所の足跡を順調に記録することができました。これもひとえに皆様のお力添えによるものと深く感謝申し上げます。

2020年度は、当初から新型コロナウイルス感染拡大のため、授業は遠隔形式に形を変え、図書館は利用縮小となり、多くの学会ではリモートによる開催が現在でも続いています。教育・研究をめぐるこれまでから一変した状況の中で、研究所の月々の連絡会や研究例会も遠隔形式になるなど、その研究活動にも少なからず影響が出てきていることも事実です。

第10回目となる公開講演会「AIと外国語教育を考える」（講師：川添愛氏）はZOOMによるリモートで開催しましたが、例年とは別の効果も見られました。通例よりも多くの皆様に首都圏、関東地方以外の遠隔地からご参加いただき、より多くの質問やご意見をお寄せいただきました。学内外の遠隔による外国語の授業を振り返ってみても、対面授業とは違った面で良い効果もあった、とのお話も耳にします。

また、2021年2月に行われた第10回「高等学校外国語教員との懇話会」では、この1年間の高等学校と大学の遠隔形式による外国語の授業を、教授法、教育内容の面から意見交換ができました。昨年度のテーマであったICTに関する意見交換が、今年度のコロナ禍での授業運営に役立ったことは不幸中の幸いでした。これを機にさらなる教授法の進展が望まれます。

本紀要第9号を刊行するにあたり、このような手探りの厳しい状況の中でご寄稿いただいた執筆者の皆様をはじめ、査読をいただいた先生方には心から御礼を申し上げますとともに、今後の外国語教育のさらなる新しい方向性をも探るべく、本研究所への一層のお力添えをお願いする次第です。